



1. 秋季地区予選を終えて — 「信じる、待つ、許す」

9月12日、秋季地区予選の代表1位決定戦に臨みました。結果は0対4でした。9月に入り、チームにはさまざまな課題が見られました。朝練の時間に寝坊する。授業の開始時刻に間に合わない。授業に必要な教科書や準備物を忘れる。寮のルールで決められているスマホについても、寮監に提出したように見せかけ、事実と違うことを伝えてしまう。その都度、学校の先生方や野球部の指導者で話をし、指導を重ねてきました。ただ、私たちは単に「ダメだからやめなさい」「ルールだから守りなさい」と伝えたいわけではありません。「そもそも、なぜそれが大切なのか」を考えてほしいのです。

朝、決められた時間に起きることは、**自分で自分を律する力を身につけるため**。

授業の時間を守ることは、**自分だけでなく、先生と一緒に学ぶ仲間**の時間（他者意識）を大切に**するため**。

教科書や準備物を自分で用意することは、**自分のことに自分で責任を持つため**。

そしてスマホについては、高校野球に本気で向き合える時間は、人生の中で一度しかない中で、スマホに時間を奪われるのではなく、**仲間との時間、野球に向き合う時間、自分自身を成長させる時間を大切に**してほしい。そんな願いがあります。何より、嘘をついてその場を切り抜けることを覚えてほしくありません。ごまかして一番損をするのは、最後は自分自身だからです。しかし、指導を受けたその場では反省しても、それがなかなか行動の変化につながらない場面も、特に1・2年生を中心に見られました。「この状態で、試合に出していいのだろうか」「野球だけでできれば、それでいいのだろうか」野球部が目指しているのは、野球だけが上手な選手ではありません。だからこそ、私たち指導者も考えました。

それでも最後は、「生徒を信じよう」というところに立ち返りました。引退した3年生たちも、今の後輩たちの姿を見ながら、それでも「後輩の成長を信じる」という話をしてくれたようです。そのことを聞いた時、3年生もまた、野球部での経験を通して少しずつ成長してくれているのだと感じました。

指導者同士で、よく「信じる、待つ、許す」という話をします。言葉にすれば簡単ですが、実際の教育は、その繰り返しなのだ
と私自身つくづく感じます。

信じて、また失敗する。話をしても、また同じことをする。それでも、もう一度話をする。もう一度信じて、変わるのを待つ。許すということも、何をしてもよいということではありません。間違ったことは間違っていると伝え、必要な指導をした上で、その失敗だけでその生徒を決めつけず、「次は変わる」ともう一度信じることだと思っています。

技術を磨くことはもちろんですが、それ以上に、朝起きること、時間を守ること、授業を大切にすること、嘘をつかないこと、仲間を大切にすること。そんな当たり前のことに、もう一度チーム全体で向き合いたいと思います。

信じる。待つ。許す。そして、また信じる。

2. 「自分で考える選手」へ — 指示待ちからの卒業

練習試合や校務の出張などで他校へ伺うたびに、さまざまな指導者の方や教育関係者とお話をさせていただきます。その中で、必ずと言っていいほど話題になるのが、「生徒たちの自立」についてです。

これは高校球児だけの問題ではありません。時代や家庭環境も変化し、生徒一人ひとりの育ってきた環境も違います。しかし、私たち指導者には、「たくましく、自分で考え、自分の力で困難を乗り越えられる人間に育ってほしい」という共通した願いがあります。

私自身好きな本ですが、外山滋比古氏の『思考の整理学』では、学校教育の中で、先生から教えられたことを覚え、指示された通りに動くことが得意な人を、「グライダー」にたとえています。グライダーは、風に乗ればきれいに飛ぶことができます。しかし、自分自身でエンジンを持っているわけではないため、条件が整わなければ飛び続けることはできません。これと同じように、誰かから答えを教えてもらい、指示されたことを正確にこなすだけでは、自分で課題を見つけ、自分で考え、自分の力で前に進む力は身につけにくいという考え方です。

野球で言えば、指導者から「これをしなさい」と言われたことだけをする、声をかけられなければ動けない。それでは、まだ「グライダー」の状態です。試合の流れを見て自分に必要な準備をする。自分の課題を見つけて練習する。仲間の様子を見て、チームのために今何ができるのかを考える。そうした行動ができるようになって初めて、**自分の力で飛ぶことのできる選手**へと成長していきます。そのためには、時には**失敗することも大切な経験**です。

寮で寝坊した時にどうするのか。授業等の忘れ物をした時にどうするのか。思うように試合に出られない時にどうするのか。苦しくて逃げたくなった時にどうするのか。大人が先回りして困難をすべて取り除いてしまえば、子ども自身が考え、判断し、乗り越える機会も少なくなってしまうです。

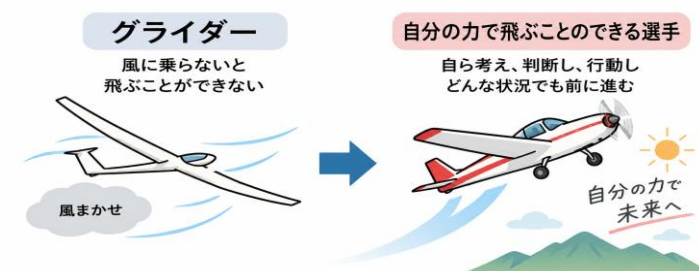
選手がスマホを使用できる夜の時間や土日の練習試合等で会った際に「苦しい」「つらい」「うまくいかない」と話すこともあると思います。もちろん、本当に困っている時には、大人が支えることが必要です。しかし、すぐに答えを与え、解決してあげることだけが支えることではありません。

そんな時こそ、

「あなたはどうしたいのか」

「そのために、自分には何ができるのか」

と問いかけ、考えさせることも、大切ではないでしょうか。



苦しいことや思い通りにならないことがあるからこそ、「このままではいけない」「自分が変わらなければならない」という気持ちが生まれます。そして、その経験を自分の力で乗り越えることで、自信やたくましさが育っていきます。

高校卒業後、大学や専門学校、社会に出れば、いつまでも指導者や保護者がそばにいて答えをしてくれるわけではありません。最後は、自分で考え、自分で決断し、自分の行動に責任を持つことが求められます。

だからこそ、野球部では、何でも指示し、何でも大人が解決することが良い指導だとは考えていません。時には見守り、時には待ち、時には失敗を経験させながら、自分で考える力を育てていきたいと思っています。もちろん、まずは教えられたことを素直に受け入れ、基本を身につけることも大切です。その上で、最終的には指示がなくても、自ら考え、判断し、行動できるようにしてほしい。**「自立」は、成長への第一歩です。**

高校野球の3年間を、指示を待つ「グライダー」から、自ら考え、自ら動き、自分の力で未来へ飛び立つ人間になるための時間にしてほしいと願っています。

3. 寮生活だからこそ、育つものがある

野球部は、親元を離れ、仲間とともに寮生活を送っています。私たちは、寮生活もグラウンドと同じくらい大切な「人間形成の場」だと考えています。掃除、洗濯、時間管理、点呼、身の回りの整理整頓。自宅では家族がしてくれていたことも、自分でしなければなりません。また、異なる環境で育った仲間と毎日生活すれば、当然、考え方の違いからぶつかることもあります。

自分の思い通りにならないこともあります。

しかし、だからこそ学べることがあります。自分のことは自分です。相手の立場を考える。我慢する。譲り合う。感謝する。そして、自分たちで問題を解決する。こうした経験の積み重ねが、自立する力につながっていきます。

以前、ある保護者の方が、

「帰省した我が子が、玄関で自分の靴やカバンを揃えていた。寮に入れて本当によかった。それだけで十分です」と話してくださいました。

野球が上手くなった、身体が大きくなったという成長だけではありません。誰かに言われなくても靴やカバンを揃える。使った場所をきれいにする。周囲の人を考えて行動する。そんな小さな変化にこそ、寮生活での大きな成長が表れているのだと思います。

昔から、「可愛い子には旅をさせよ」と言われます。本当に子どもの成長を願うのであれば、いつまでも親が先回りして守るだけではなく、時には親元から離れ、不自由や苦労を経験させることも大切だという教えます。今の社会は便利になり、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わりました。だからこそ高校野球では、**自分に厳しく、仲間を大切にし、思い通りにないことにも耐えながら、夢に向かって努力できる人間を育てたい**と考えています。

そのためには、指導者だけではなく、ご家庭の協力も欠かすことができません。寮生活をしている分、久しぶりに試合会場で我が子に会えば、「何かしてあげたい」「これを食べさせてあげたい」と思われるのは当然の親心だと思います。ただ、そこには我が子だけでなく、同じように親元を離れて頑張っている仲間がいます。そこで大切にしていきたいのが、「私」ではなく「公」の精神です。

我が子だけを見るのではなく、チームの子どもたちみんなを見る。我が子だけが良ければいいのではなく、仲間も含めて成長を支える。そうした保護者の皆様の姿勢も、子どもたちは見えています。個人の差し入れなどについても、ぜひチーム全体へのご配慮をいただければありがたいと思います。

高校球児を育てる 3 年間は、選手だけが頑張る 3 年間ではありません。選手も、家族も、指導者も、ともに成長する 3 年間です。最後までやり抜いた選手には、野球の結果以上のものが残ります。そして、その成長を信じ、時には離れたところから見守り続けたご家族にも、きっとかけがえのないものが残るはずです。

親元を離れているからこそ、育つものがある。不自由だからこそ、気づけるありがたさがある。

仲間と暮らすからこそ、「私」から「公」へと成長できる。

それこそが、本校野球部が寮生活を大切な教育の場と考える理由です。



4. ごまかさない人になる ― 誰も見ていない時に何をするか

日々の指導の中で、私たちが繰り返し伝えていることの一つに、「ごまかさない」ということがあります。ノックや試合の中でも、「今のプレーはごまかした」「ごまかしていない」というやり取りをすることがあります。しかし、私たちが伝えたい「ごまかさない」とは、単に一つのプレーについての話ではありません。練習、トレーニング、食事、掃除、提出物、寮生活など、日常のあらゆる場面に表れるものです。指導者が見ている時だけ一生懸命にやる。見ていなければ手を抜く。「やりました」と言いながら実際には十分にやっていない。その場だけ取り繕う。そうした小さなごまかしは、一度だけを見れば大したことではないように思えるかもしれませんが、しかし、**ごまかして一番損をするのは、指導者でも仲間でもなく、自分自身**です。

誰かに怒られないためにやるのでも、誰かに評価されるためにやるのでもありません。指導者が見ているからやる、見ていないからやらない。そのような姿勢では、野球選手としても、一人の人間としても本当の成長にはつながりません。野球において、本当に大切なものの多くは**目に見えないところ**にあります。

練習が始まる前の準備。誰も注目していないグラウンド整備。ベンチからの声。自主練習。そして、一日一日の小さな積み

重ねです。試合で目に見える一本のヒット、一つの好プレー、一つの勝利だけが突然生まれるわけではありません。その裏側には、誰にも見られていない時間に何をしてきたのかという積み重ねがあります。

野村克也氏が大切にした考え方にも通じますが、**勝敗を分けるものは、試合当日に突然生まれるのではなく、それまでの「見えない部分」にある**と私たちは考えています。だからこそ育てたいのは、指導者がいなくてもやれる選手です。

誰も見ていなくても、やるべきことをやる。誰にも褒められなくても、手を抜かない。自分で決めたことを、自分との約束として守る。

野球は、そうした人間性を映し出す競技でもあります。ごまかしてその場を切り抜けることはできても、積み重ねまでごまかすことはできません。そして、その積み重ねはいつか必ず、野球だけでなく人生の中で自分自身に返ってきます。

「誰かが見ているからやる」から、「誰も見ていなくてもやる」へ。

そして、このことは選手だけに求めるものではありません。このような話を選手たちにする以上、私たち指導者自身も、誰も見ていないところでどのように行動するのか、自分自身をごまかしていないかを常に問い続けなければならないと思っています。まずは指導者自身が姿勢で示すこと。私たちもまだまだ学び、成長していかなければなりません。

選手と指導者がともに、目に見えない部分を大切にし、誠実に一日一日を積み重ねていく。そんな野球部でありたいと思います。

5. 食堂のスタッフより

野球部のみなさんの食堂でのマナーは、以前にくらべると少しずつ良くなってきたように思います。ただ、毎日食事を見ると、まだ気になることもあります。特に野菜などの副菜を取らなかったり、好き嫌が多く、せっかく用意した食事を残してしまう生徒もいます。身体を大きくして野球を頑張るためにも、好きな物だけではなく、いろいろな物を食べてもらいたいと思っています。また、床に食べ物を落としても、そのままにして帰ってしまう人もいます。落としたら自分で拾う、食べ終わったら身の回りをきれいにする。ほんの小さなことですが、こういうことがまだ習慣になっていない生徒もいるように感じます。毎日見えますと、それぞれの家庭で身につけてきた習慣の違いもあるのかなと思うことがあります。

その一方で、食べ終わったあとに毎回、「**ごちそうさまでした。今日もおしかったです。**」

と言ってくれる生徒もいます。私たちににとっては、その一言がとてもうれしいものです。「また明日もおいしいご飯を作ろう」と思わせてくれます。食堂は、ただお腹いっぱいにする場所ではないと思っています。食べ物を大切にすること、作ってくれた人に感謝すること、自分が使った場所をきれいにすること。こういうことも、これから社会に出ていくうえで大切なことだと思います。私たち食堂のスタッフも、子どもたちの成長を楽しみにしながら毎日の食事を作っています。食堂も一つの人間教育の場所として、みんなで良い場所にしていけたらと思います。

6. 新しい仲間を求めています ― 保護者の皆様へのご協力依頼

現在、方谷學舎高校野球部では、来年度に向けて新しい仲間との出会いを求め、生徒募集にも力を入れています。中学校やクラブチームへの訪問などを行っていますが、生徒募集に「これが正解」というものはありません。最近では、中学生が身体のケアで通う整骨院なども、新しいご縁につながる場所になるのではないかと感じています。

保護者の皆様の周りにも、「高校でも野球を続けたい」「環境を変えて頑張りたい」という中学生やご家庭、中学校・クラブチーム・整骨院など、中学生とのつながりをお持ちの方がおられましたら、ぜひお声掛けいただけるとありがたいと思います。また、「こんなところに声を掛けてみては」「こんな募集方法があるのでは」といったアイデアも大歓迎です。情報やご提案がございましたら、小西までお知らせください。選手・指導者・保護者、みんなで新しい仲間を迎え、さらに魅力ある野球部をつくっていかれると思います。ぜひお力を貸してください。